

# これからの教育環境のあり方について

## 小野町教育環境検討委員会から町長へ提言

平成18年3月28日、小野町多目的研修集会施設において、小野町教育環境検討委員会（佐久間林作委員長）から宍戸町長に対し、「小野町のこれからの教育環境のあり方」について、提言がされました。

この委員会は、平成17年7月12日、町内全域から25名の委員を選出し町長が委嘱したものです。

（提言の内容は、別表のとおりです。）

町・教育委員会においては、これらの提言を受けて小野町としての具体的な教育環境の整備方針を今年度中に策定する予定です。

検討委員会では、国全体の急激な少子化社会の到来と教育を取り巻く社会環境などの変化を客観的かつ現実的に見据えながら、当町における教育環境の現状と課題、アンケート結果の分析、更には先進自治体事例の現状視察研修も行的、委員相互の意見交換と検討審議を重ねてきました。

この結果、次に述べる基本的な考え方から立って、教育環境の整備を進めることが望ましいとの考えを基に提言が策定されました。

### 一 教育環境検討委員会における審議の大前提

○ 子どもの立場に立って、子どもにとって一番良い教育環境とはどうあるべきか。

当検討委員会では、委員の提案により、この検討委員会の会議を進めるに当たって、「子どもたちにとって、一番良い教育環境とはどうあるべきか」という観点を最優先に考えることを大前提にして検討する、という共通認識のもとに審議を重ねてきた。



提言書を渡す佐久間委員長

○ 委員は地域代表ではなく、町全体の大きな枠組みからの委員であること。

検討にあたっては、地域における委員の立場、地域と学校の歴史的しがらみ、委員各位の持っている教育観の相違等さまざま意見があった。

その上で、委員は地域を代表する地域の代弁者という立場では無く、町全体の大きな枠組みからの委員としての立場から、なんらの制約を設けず、委員各自の自由闊達で率直な意見を交換し審議を重ねることにしたものである。

○ 既成の原案を審議したのではなく、白紙のところから意見を積み上げたこと。

当委員会は、既に出来上がった原案の是非を検討する審議会的性質ではなく、白紙のところから検討を委ねられたことから、教育観について、あるいは理想的な教育環境のあり方について、委員相互の意見交換と検討審議を重ねて取りまとめた提言である。

当委員会の検討審議では、少人数の学級、複式学級及び規模の大きな学校などの教育効果の相違としてメリット、デメリットなど様々な意見交換があり、委員各位も教育効果のあり方についての認識の相違もあつたこと、意見の集約には難しい経過があつた。しかし、これらの検討を重ねる中に

において、現在の社会経済の大きな変化と、これからの社会が必要とする人間像のあり方の課題について、大所高所の見地に立ち、次に述べる3項目の客観的かつ現実的な認識と視点を持つことが重要であり、これらの視点を委員各位が共有することにより、検討委員会としての意見を集約することとなつた。

第一には、少子化社会の現実であること。

「少子化社会」の到来は社会的現実であり、大きな課題である。この現実と課題から目をそらし、避けて通ることとは出来ないことである。安易な期待感からの人口増加を予測するのではなく、国全体の課題である少子化の現実を真正面から捉え、対応するために、教育環境のあり方を考えることは必然であること。



浮金小学校